

馬毛島の自衛隊施設整備に関する要望書を防衛省へ提出

馬毛島の自衛隊施設整備につきましては、令和 6 年 9 月 10 日に防衛省から、工事開始後の状況を踏まえ、工程を改めて精査したところ令和 12 年 3 月末の完成見込みとなった旨、また、工事関係者数のピーク（種子島約 2,000 人、馬毛島約 4,000 人）は現時点で確定的にお知らせすることは困難だが、馬毛島における仮設宿舎は令和 7 年 3 月末までに完成させる予定であり、それ以降になるものと考えているとの説明を受けました。市としては、市民生活への影響の長期化や拡大が懸念されることから、市内各種団体等の皆様から、工期延長に伴う影響等について、不安や期待の声等のご意見をお聞かせいただきました。

それらをふまえ、令和 6 年 11 月 13 日に防衛省（防衛大臣宛）に対して要望書を提出しました。その内容について全文を掲載します。

馬毛島の自衛隊施設整備に関する要望

馬毛島の自衛隊施設整備に伴う市民生活への影響については、本市からの対策を求める要望に対し、国において一定の対応が図られてきているものと評価しております。

そのような中、工事工程精査の結果、事業全体の完了が令和 11 年度末の見込みとなった旨、さらには、工事関係者のピークが令和 7 年 4 月以降との説明を受けました。それに伴い、本市としましては、市民生活への影響の長期化や拡大が懸念されることから、市内各種団体等に対して、工期延長に伴う影響等について意見聴取を行い、不安や期待の声の把握に努めたところです。

ついては、本市住民の懸念事項等を踏まえ、下記について、速やかに必要な対応を行うよう要望します。

加えて、騒音や基地機能の拡大などについて、本市住民の不安は根強いものがあります。不安解消につながる実効性の高い対応や対策について、あらためて要望します。

記

- 1 馬毛島の自衛隊施設整備は地元理解が前提であり重要です。西之表市議会を含め、十分かつ丁寧な情報提供に努めること。

- 2 住民の安心・安全の確保に万全の対策を講じるとともに、周辺海域への土砂流出対策などの環境保全措置に万全を期すこと。
- 3 馬毛島における夜間の救急搬送体制の早期確立等、市内医療機関等への影響に配慮の上、救急・医療体制の更なる充実を図ること。
- 4 人流・物流増加に伴う事件事故など、住民の治安等に対する不安を考慮し、法令及び社会規範遵守の周知徹底に取り組むこと。
- 5 馬毛島への送迎船及び送迎車両の騒音（振動）や、市街地周辺の駐車場の利用に対しては、引き続き格段の配慮を払うこと。
- 6 観光客の減少に伴う関連産業への影響が長引くことが懸念される。引き続き、市内団体等と連携の上、販売促進や販路拡大のための協力を行うこと。
- 7 コンテナハウス設置に伴う苦情など貴省が直接関与しない事案についても、住民の不安解消の観点から、可能な限り本市と連携の上、対応すること。
- 8 馬毛島の自衛隊施設整備に伴い、本市住民や産業に影響を与える事項等が生じた場合は、速やかに情報提供を行うとともに、本市と協議の上、必要な対応を行うこと。

馬毛島における自衛隊施設の整備等に関する工事関係者の事故について

令和 6 年 10 月 22 日、九州防衛局種子島連絡所から同月 18 日に発生した事故概要等の説明を受け、市から国に申し入れを行いました。また、10 月 28 日に九州地方整備局から、事故原因の究明及び再発防止対策の検討が完了し、工事を再開する旨説明を受けました。その内容を掲載します。

【事故概要】九州地方整備局が発注した令和 4 年度馬毛島滑走路等新設工事（その 1）において、令和 6 年 10 月 18 日（金）21 時頃、掘削作業に従事するバックホウが雨水を集積する場所（釜場）へ転落する事故が発生。その後、同日 23 時半頃、搬送先の病院にてバックホウ運転手の死亡が確認された。

■市から国への申し入れ

- ①早急な原因究明と今後の改善策（再発防止）の報告
- ②夜間の救助、搬送体制の更なる充実
- ③安全管理の徹底（特に、夜間作業時）
- ④労働安全衛生法等、関係法令の引き続きの遵守
- ⑤工事関係者への安全対策の周知徹底
- ⑥引き続き、速やかな情報提供

【事故原因】

- ①不明確な作業手順
 - ・作業指揮者から作業員（被災者）への当日の作業内容の指示が正しく伝わっていなかった。
- ②安全管理体制の一時的な不備
 - ・作業指揮者が他の作業の対応のため、一時的に事故現場を離れていた。
- ③安全な作業環境整備手順の不徹底

・安全な作業環境整備（釜場への転落防止としての土堰堤の設置）の手順が徹底されておらず、土堰堤が一部設置されていない箇所から重機が転落した。

【再発防止対策】

- ①作業手順の明確化
 - ・作業指揮者から作業員への当日の作業内容について、口頭に加え、図面・文書で具体的に指示を行い、確実に伝達する。
- ②安全管理体制の強化
 - ・作業指揮者を増員し、安全管理体制を強化する。
 - ・安全に対する意識向上のため、安全教育における周知や安全パトロールでの現場確認を強化する。
- ③安全な作業環境整備の徹底
 - ・釜場の施工方法など安全な作業環境整備（釜場への転落防止としての土堰堤の設置）の手順を明確化し、確実に実施する。

種子島及び馬毛島に滞在する工事関係者数の推移

種子島に滞在する工事関係者数推移（単位：人）※（ ）内は西之表市の数

	(R5) 10/31 現在	12/22 現在	(R6) 2/29 現在	4/24 現在	6/28 現在	9/6 現在	10/31 現在
宿泊施設	約 140 (約 120)	約 160 (約 130)	約 140 (約 110)	約 190 (約 150)	約 170 (約 110)	約 90 (約 80)	約 190 (約 150)
賃貸物件	約 380 (約 310)	約 450 (約 340)	約 520 (約 410)	約 470 (約 360)	約 440 (約 330)	約 380 (約 290)	約 410 (約 300)
仮設宿舎	約 870 (約 600)	約 1,080 (約 810)	約 1,050 (約 860)	約 1,060 (約 840)	約 1,140 (約 870)	約 1,340 (約 1,000)	約 1,240 (約 1,010)
自宅等	約 170 (約 110)	約 110 (約 70)	約 90 (約 60)	約 90 (約 60)	約 90 (約 60)	約 100 (約 60)	約 160 (約 120)
合計	約 1,550 (約 1,140)	約 1,800 (約 1,350)	約 1,800 (約 1,440)	約 1,800 (約 1,400)	約 1,840 (約 1,380)	約 1,910 (約 1,430)	約 1,990 (約 1,590)

馬毛島に滞在する工事関係者数推移（単位：人）

	(R5) 10/31 現在	12/22 現在	(R6) 2/29 現在	4/24 現在	6/28 現在	9/6 現在	10/31 現在
馬毛島	約 580	約 1,000	約 1,480	約 1,640	約 1,840	約 2,290	約 2,860
種子島馬毛島合計	約 2,130	約 2,800	約 3,280	約 3,440	約 3,680	約 4,200	約 4,850

※各数値は1桁目の位を四捨五入している。そのため内数の和が小計と合わない場合がある。

※R5.8月から、馬毛島分の工事関係者数については、休暇等により一時的に馬毛島を離れる者もカウントするように集計方法を変更している。

※なお、馬毛島内の仮設宿舎については、10月31日時点で約2,860室整備、12月頃までに約3,030室整備予定。

※将来的な工事関係者の見通しは種子島で最大2,000人程度、馬毛島で最大4,000人程度。

このため、馬毛島における仮設宿舎は、工事の進捗に応じて段階的に建設し、令和7年3月末までに約4,200室を完成させる予定。